

令和3年度第1回伊賀市文化振興審議会 議事録

■日 時／ 令和3年12月20日（月）午前10時00分～午前11時54分

■場 所／ 伊賀市役所本庁舎2階 202・203会議室

■委員

学識経験者	中川 幾郎	帝塚山大学（名誉教授）	出席
文化関係団体	中村 忠明	伊賀市文化都市協会（理事長）	出席
	岡島 久司	芭蕉翁顕彰会（会長）	出席
	小島 憲二	市展「いが」運営委員会	出席
専門知識を有する者	増田 瑞穂	校長会	欠席
	櫻本 悦子	保幼小連携推進教諭	出席
公共的団体等を代表する者	田邊 寿	伊賀市社会福祉協議会（事務局長）	出席
	福田 良彦	伊賀市文化財保護審議会	出席
	安田 聡志	伊賀上野観光協会（企画課長）	出席
	菊野 善久	上野商工会議所（副会頭）	欠席
公募市民	前山 正清	—	出席
その他市長が必要と認める者	森 公美	（画家）	欠席

**事務局**

〔伊賀市〕 岡本市長、藤山企画振興部長、風隼企画振興部次長、馬場文化交流課長、橋本文化交流課主査

**オブザーバー**

〔公益財団法人伊賀市文化都市協会〕 服部参事、友田事業課長、杉本事業課係長

■内 容

- 1 委員の変更について
- 2 諮問
- 3 協議事項
  - (1) 伊賀市文化振興プランの進行管理について
  - (2) 事業カードの運用について
  - (3) 今後の取り組みについて検討事項：文化振興プラン最終案について

■議事録

司会	令和3年度第1回伊賀市文化振興審議会を開催する。 (資料、会議成立、会議公開の確認) 会長よりご挨拶いただく。
----	---

会長	(あいさつ)
司会	次に、委員の変更について、事務局より説明する。
事務局	(資料1に基づき、委員の変更を説明)
司会	次に、諮問として、市長より会長へ諮問書をお渡しする。
市長	(会長へ諮問)
司会	市長より挨拶を申し上げる。
市長	(あいさつ)
司会	市長は公務のため退席させていただく。 (事務局及びオブザーバーの紹介) 次に、協議事項。ここからは、審議会規則に基づき、会長に進行いただく。
会長	(1) 伊賀市文化振興プランの進行管理について、これは伊賀市文化振興プランそのものの進行管理状況を子細に審議し意見を述べるのがこの審議会の役割でもあるので、よろしく願います。事務局の説明を求める。
事務局	(資料2に基づき、伊賀市文化振興プラン前期実行計画(以下「プラン」という。)策定の経緯と概要を説明。資料3に基づき、プラン進行管理スケジュールを説明。)
会長	事務局の説明に対し、質問・意見あったら発言いただきたい。 事務局に確認するが、3月11日で現審議会委員の任期切れになるが、新年度からの任期で、年度で収まる任期に変えたいということか。空白期間が生じるが支障はないと思われるので、事務局の裁量で願います。 特に質問・意見なければ次に進むが、最後に自由に意見いただく時間を設ける。 次に、(2) 事業カードの運用について、事務局の説明を求める。
事務局	(資料4及び資料5に基づき、事業カードの提出状況と評価資料としての見方を説明。)
会長	事業カードについては、伊賀市文化都市協会の力を借りて設計した。これまでを振り返ると、ビジョンができ条例ができ計画ができた。普通はそれで終わってしまう。肝心なのは計画通りに中身を実現していくこと。それから空中戦のような実りのない議論はやめようということ。極めて実質的に事実即して評価していくべきである。そのために、委員が事業の全容を把握しようと考えたのがこの事業カード。量はたくさんあるが、成果が感じられない場合は、事業統合や主体間連携、役割分担を見据えた議論をしようということ。事業カードを導入した先進自治体は議論が進みやすくなっている。本市においてもようやく出揃いつつある。 伊賀市文化都市協会から補足の説明はあるか。
オブザーバー	(事業カードをもとに実施した関係課ヒアリングの結果を報告)
会長	以後は順次、各委員に発言いただき参考にさせていただきたい。
委員	資料4と5の中で、「目的達成度、課題など実施により感じたこと」というこの項目が大事。記載が不十分なところは残念。計画と実績、特に実際に事業を行なった記録をしっかりと書くのが、このフォーマットの一番重要なところ。 あと、単年度ごとの記載が表示できるように資料の様式を変更すべきではないか。
事務局	今回は例示的に令和2年度の実績と3年度の計画及び実績を表記した。来年度は3年度と4年度の表記になるが、「目標達成度、課題など実施により感じたこと」について

	<p>は、直近年度の分を記載いただき、それらをもとに継続、拡大、縮小など評価をする際の資料としてもらいたい。</p>
委員	<p>実際に提出された事業カードを見ながら議論をしたり、意見交換会でも情報を把握しながら進めて行ってもらいたい。</p>
委員	<p>今回この事業カードは市と伊賀市文化都市協会の分を出してもらっているが、それ以外は啓発中ということで理解しておいてよいか。それらが出揃った時点でもらったら、より具体的に課題あるいは評価など議論を深めることができると思う。これから繋げていくという理解でよいか。</p>
事務局	<p>本日の会議に実際の事業カードを資料として出すことも考えたが、書き方が統一できてなかったり、提出してほしい団体等に情報が届いていなかったりしたので、もう少し周知等をする必要がある。新年度に入って改めて事業カードの提出を依頼するときに、今年よりも丁寧に案内して取りまとめたうえで、委員に見てもらいたいことを考えたい。</p>
委員	<p>自分の仕事に関連してミュージアム青山讃頌舎で展示会をした際、市内の親子が見に来てくれた。小学校で配布されたチラシを見てきてくれたようだが、その子どもは「私もこんな仕事がしたい。」と言ってくれた。それを聞いて展示会してよかったと思った。最近関わっている事業の中でも、徐々にそういう言葉を聞く機会が増えてきた。具体的に子どもたちとの関わりとか、そういうことが提案できたら良い。事務局や他の人も実態を体感してほしいと思う。</p>
委員	<p>教育・保育の現場では、ひとつづくりや郷土愛の醸成にも取り組んでいるが、コロナの状況の中で、これまで出来ていたことが出来なくなったり、人との関わりが出来なくなったりしている。それでも、最近では感染対策をしながら、どうすれば出来るかを考える方向になってきた。今後、子どもたちが文化に親しむことで心豊かになっていくということに加え、キャリアの面からもとても大切だと思っている。しかし、保護者のほうにはまだまだ余裕がないので、保護者にアプローチする活動ができれば良い。今後も連携した取り組みに期待をしている。</p>
会長	<p>2人の委員から子どもに関する話があったが、これまでの議論の経緯を確認したい。この審議会で、過去に小・中学校にアーティストを派遣するインサート事業ならびに幼稚園・保育所・認定こども園や幼児検診の会場でアートに触れるアートスタート事業を本市でもできないかっていう話はなかったか。</p>
事務局	<p>具体的にこの審議会の中でそういう話は出ていた。すでに今年11月に伊賀市文化都市協会がアウトリーチ事業として、市内4つの小中学校に琴と尺八の演奏者を派遣した。また、市民病院でのコンサートも検討したが、コロナで現状は厳しい。来年以降も継続して取り組んでいくため伊賀市文化都市協会と協議していく。</p> <p>また、ミュージアム青山讃頌舎に関しては、現在、四大絵巻の企画展をしているが、一部の作品は小学校の教科書で習うことから、見に来てくれた子どももいる。そういった子どもが文化に触れる機会をこれからも増やしていきたい。</p>
会長	<p>学校教育では主要科目に比べ芸術教育は離れた存在になっている。しかし、文化権の保障は人権教育であり、供給ということを積極的にやっていくのが自治体の責任と思う。学校からは要求しにくいので、学校に対して手を差し伸べるという仕組みをつくらないといけない。これは子どもへの職業教育の可能性を開くことでもある。市内の芸術</p>

	<p>家やプロの芸術家を伊賀市文化都市協会を通じて派遣するような仕組みをそろそろ考えるべきではないか。先進自治体ではすでにやっている。</p>
オブザーバー	<p>事務局を含め、同じ思いで取り組んでいる。市関係課と子どもたちのためにという視点を前提に話をしているが、予算面が障壁になる。きっかけは伊賀市文化都市協会です。あとはマンパワーと経費だが、市内のアーティストは協力的でとてもありがたい。本人にとってもスキルアップや地域との接点ができるので Win-Win な事業と言える。そこで、学校に行くからお手伝いしてほしいという形で、車の車輪は非常によく回っているが、エンジンが予算を生み出さない。この点に非常に苦慮している。そのために、プランにおける庁内推進会議での議論に期待しているが、コロナの影響でスケジュールが遅れている。次年度から予算に反映してもらえそうな話ができたらと思っている。市民や文化団体については、意見交換会で同じような課題についてしっかりと議論をしたい。</p>
会長	<p>事務局にお願いするが、それを何らかの形でルーチンワークとしてシステム化するほうに向けて調査研究を開始してほしい。先進自治体ではアーティストが不足するぐらい派遣事業をやっているが、文化団体であっても全部頼るわけにもいかないので、多角的な研究が必要である。本市でもできると思うのでよろしくお願いします。</p>
委員	<p>これまで会長や委員から話があった点に福祉をかければ、すべて繋がってくるように思う。福祉の部分というのは、個別的に難しい方に対していかに繋げていくのかということが軸になってくる。繋げることができれば、いろんなことが豊かになっていくと思うので、今後の意見交換の場は期待しているが、必ず移動の問題は出てくる。行きたいけど行けないという声をすごく聞くので、連携・協力できるような会長の提案は非常にありがたい。また、作業所など取り組みを強化している法人もあるので、タグを組みやすい環境になってきているように思う。</p>
委員	<p>コロナの中での動き出しで事務局はじめ関係者がたいへん努力をしていることに敬意を表したい。3点、尋ねたい。</p> <p>1点目は、事業カードが提出されヒアリングも行って今後どうしていくかということだが、個々は細かい努力で進んでいくと思うが、例えば基本方針ごとの課題や予算など大きな視点で見ることができる資料があってもいいように思うがどうか。</p> <p>2点目は、プランの評価指標3に「さまざまに手を繋ぐ」という項目があるが、これは事業カードのどの部分と整合が図れるものなのか。わかりにくいので教えてほしい。</p> <p>3点目は、事業カードがこれから検証していく中で大変重要なポイントになってくると思うが、市や伊賀市文化都市協会以外の団体や個人の提出は難しいと思う。そのことに対する工夫など考えていることがあれば教えてほしい。</p> <p>最後になるが、コロナでいろんなことが難しくなっているが、神戸や東日本の震災のときも、それを乗り越えていくための文化の力は未来の力になると思うので、文化の担当部局の方は自信を持って取り組みを進めていただきたい。</p>
事務局	<p>1点目の個々の事業ごとではなく大きな基本方針ごとに課題をとということについては、議論しやすい資料というのを検討しながら対応していきたい。</p> <p>2点目の指標については、効果的な事業の実施に向けたコラボレーションを推進するために指標とした。現状では事業カードから連携が見える部分の数を拾うことを考えている。</p>

	<p>3点目の他団体への声掛けについては、いろんな場を活用してプランの啓発に取り組み提出につなげていきたい。</p>
委員	<p>事業者側の目線で説明を聞かせてもらったが、PDCAサイクルを回していく中で、具体的に数値化できることとできないことがあると思うが、事務局がイメージするサイクルの仕組みがあれば教えてほしい。</p> <p>あと、審議会の中でいろいろ協議したり評価したりすると思うが、それに対し事業者がどのくらい協力してくれるか。そのためにも連携や協働を進めるような事業者同士のマッチングや意見交換できる場があればおもしろいと思う。</p>
事務局	<p>PDCAについては、個々の事業の成果とまちづくりアンケートの満足度を見ながら、課題を分析し改善につなげることでサイクルを回していきたい。</p> <p>今後予定している意見交換会では、各団体や芸術家にも集まっただき、様々な意見を出してもらって連携や協力のきっかけになればと考えている。</p>
オブザーバー	<p>事務局案であるが、意見交換会は7つの基本方針をテーマにしたワークショップを考えており、そこで大きな視点からの課題抽出も検討している。どれだけ参加者の本音を引き出せるか、手法を試行錯誤しながらつくりあげていきたい。</p> <p>事業カードについては、まだじっくりいってないところがある。例えば、実行委員会で事業を行ったときに、誰が事業カードを書くか。普通は事務局と考えるが、視点や成果の捉え方が様々であるなら構成団体それぞれがカードを提出してもよいと思う。それらを総括して評価するのが正しい運用の仕方ではないか。プランにおいてこの事業カードは肝要であるので、書きやすい使いやすいものに随時改めていきたいので、今後も意見いただきたい。</p>
委員	<p>2点、聞かせてほしい。1つは、PDCAにおける評価について、指標がアンケート結果なら数値として理解できるが、そうでない場合の数値目標はどのように算出されるものなのか。</p> <p>2つ目は、本審議会で総評ではなく具体的な議論をしようと思うと、もう少し資料を早くもらわなければ、見極めなどできない。事務局が忙しいのはわかるが、勉強や精査するための時間を確保してもらいたい。</p>
事務局	<p>評価の数値については、個々のそれぞれの事業の実績と、まちづくりアンケートの数値をもとに増減を見て評価していくことを考えている。</p> <p>会議資料については、次年度意向、事業カードの提出が増えれば資料も多くなると思うので、少しでも早く送付できるよう努力する。</p>
会長	<p>ひとあたり委員から意見いただいた。先ほどの意見で大事なことは、まちづくりアンケートで当面の指標の代理をしているが、各担当課においては事業カードをつくる時に事業の目的・ねらいを明確にしてもらいたい。何のためにやるのか、どういう社会的変化を狙っているのか。間違っても「広く一般市民の文化教養を上げるため」みたいな目的は書かないでほしい。そんなこと言っている時代ではない。具体的に対象母数に対して目標とする分子を考える。そこのところは担当部局に事業カードを書いてもらうときに、事務局からしっかりコーチングしてもらいたい。意識調査をすることは次の行動に結びつくから大事であり、行動調査は実施するのがたいへんである。行動は結果的に社会の変化に結びつくという3段論法で意識調査をやっている。だから満足度調査はそれなりに有効性はあるが、半面、声の大きい人が勝ってしまう。だから、ターゲットを</p>

	<p>明確にしてほしい。</p> <p>それからもう1点、特に新年度は人事異動がある、そのたびに手戻りしてしまう危険性がある。そのために、新しい職員に対するプランを理解するための研修、事業カードを書けるようにするための研修を定例化して実施してほしい。</p> <p>次に、(3) 今後の取り組みについて、事務局の説明を求める。</p>
事務局	(資料6に基づき、現状と今後の取り組み方針を説明。)
副会長	(会長離席につき代行) 事務局の説明に対し、質問・意見あったら発言いただきたい。
委員	今後の取り組みは分かったが、関連して4月以降、地区公民館が閉鎖し、代わりに市民センターに生涯学習支援員が配置されると聞いている。この職の役割と市民センターの受け止め方が、プランにとって非常に大事だと思うが、文化振興の観点からどのように考えているのか教えてほしい。
事務局	このことについては、庁内推進会議の中で担当である生涯学習課長のほうから、文化芸術を生涯学習の一環として進めていくために協力してほしいとの発言があったので、市民センターを含めしっかりと連携していきたい。
会長	協議事項が終了したので、進行を事務局に返す。
司会	次に、その他について、この際、委員から発言あればお願いする。 なければ事務局より1点、事務連絡を申し上げる。
事務局	(審議会委員の任期満了に伴う選任のスケジュールを説明)
司会	以上で、令和3年度第1回伊賀市文化振興審議会を終了する。